

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 045	提案機関名 湘南漁業協同組合
要望問題名 養殖ワカメの食害対策とワカメ品種改良・種苗生産について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 <p>漁閑期の冬場は、当漁協組合員の多くがワカメ養殖に従事しております。しかし、近年の沿岸水温の上昇により、養殖開始前の準備段階での早期の種の目落ちが激しく、養殖開始が12月にずれ込み養殖期間を短縮せざるを得なくなっています。その上、12月の種挿し後もアイゴ等による食害が酷く、生産量が半減する状況となっており、中には壊滅的なダメージを受けている漁家もあります。</p> <p>そのため、漁業者は①養殖筏を食害を受けにくい海域に移設したり、②アイゴの食害が減る12月下旬以降に種挿し養殖開始時期を遅延させたり、③食害対策防魚ネットを設置する等の対策を取り、食害防止に努めています。</p> <p>しかし、種挿し時期の遅延はワカメの生育が不十分な状況を誘発するため、ワカメ種苗品種改良を始めとする下記事項についての取組をお願いいたします。</p> <p>(1) ワカメの品種改良：種挿し時期の遅延に対応するため、短期間で生育する早生品種、冬場の高水温に耐えられる②耐高水温品種、③葉が大きく育ち肉厚で製品歩留りが良い品種</p> <p>(2) ワカメ種苗生産：現在、相模湾側のワカメ種苗生産を一手に担っている金田湾の漁家が数年以内に種苗生産を止めるとの情報が有り、ワカメ種苗の供給不足が想定されます。県内漁家の貴重な兼業種目であるワカメ養殖業を、今後とも継続できるように県が主体となって、上記品種改良と合わせて、ワカメ種苗生産に取り組んで頂きたい。</p> <p>(3) 食害防護技術開発：安価で簡易に設置できる食害対策防魚ネットの開発などの食害防試験の実施（藻場再生のための海藻増殖においても応用できるものを希望）</p>	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	冬場のワカメ養殖は、三浦半島地区の漁業者の多くが営み、漁閑期の重要な収入源となっております。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合) フリー配偶体を用いたワカメの優良系統の開発			
対応の内容等 <p>(1) ワカメの品種改良：水技センターでは、ワカメのフリー配偶体の継代培養を実施しています。これらの中から、昨年は高生長系統の開発に着手し、一部は実際の養殖現場において試験を実施しているところです。今後、更に早生ワカメ、高水温耐性系統などの優良系統の開発にも取り組んでまいります。</p> <p>(2) ワカメ種苗生産：水産技術センターによるワカメ種苗の生産・配布はできませんが、フリー配偶体を用いた新しいワカメの生産方法について、漁業者等と協力しながら開発、普及を進めるとともにワカメの種糸の供給体制についても検討してまいります。</p> <p>(3) 食害防護技術開発：古い海苔網を活用した防魚ネットが安価で効果があり普及を図っていますが、簡易なものが求められますので、漁業者による改良検討を踏まえながら指導を継続します。藻場再生のための海藻増殖への応用については、漁業者による藻場造成の取組の中で可能性を探り指導してまいります。</p> <p>また、(1)で開発する高成長の種苗を導入できれば、収穫に影響せずに養殖開始時期を遅延させることで、アイゴによる食害防止が期待されます。</p>			

解決予定年限	①1年以内	②2～3年以内	<input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内	④5～10年以内
備考				